

タンゴスジシマドジョウ

Cobitis sp.

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1999	2007
—	—	—

タンゴスジシマドジョウは、京都府丹後地方の1河川のみに生息する、2010年に新たに報告された異質4倍体性種である。新しく発見された種であるため、分布や生態などの詳細な知見が不足している。保護への具体的な対策もわずかに始まったにすぎない。本種の保護にあたっては、詳細な調査の実施から開始する必要がある。

Cobitis sp. (*Cobitis striata* complex: Cypriniformes, Cobitidae) is an allotetraploid species, newly reported in 2010. This species is endemic to a river in the Tango District of Kyoto Prefecture. The distribution, habitation situation and ecological traits of this species are not well known, and few studies have been conducted for conservation of this species. For conservation of this species, fundamental investigation is required.

基礎情報

■**形態** 体側部中央の斑紋は通常点列状でシマドジョウ種群の仲間に似るが、一部のスジシマドジョウ種群の種又は亜種で見られるように、繁殖期のオス個体のみが縦帯状の体側斑紋を示す。成熟したオスは胸鰭基部に円盤状の骨質板を持つ。ビワコスジシマドジョウやヤマトシマドジョウ種群などと同じ雑種由来の異質4倍体性の種であるが、今のところ両種で見られるような体長120mmを越す大型の個体は確認されていない。

■**分布域** 京都府丹後地方の1河川のみ（非公開）。生息河川の支流、本流の中流域の比較的広範囲に生息している事が確認されているが、詳細は不明。

■**生息環境** 詳細は不明、少なくとも河川中流域の砂泥底に生息していることが確認できている。

■**生活史** 詳細は不明だが、オスの体側斑紋の変化から、繁殖期は他のシマドジョウ類と同じ5~6月頃であると考えられる。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 本種が河川のどの範囲に生息しているか未だ不明である。近隣の河川にも生

息している可能性があるため、近隣の河川についても調査が必要である。

■**生息地の現況** 本種が生息している当該河川において、今のところ大規模に環境を改変するような状況は生じていないが、本種が生息している可能性がある支流等で河川改修工事等の実施が計画されている。

■**個体数の現況** 詳細は不明。小規模な1河川のみでしか生息していないため、現存個体数は限られる。

存続を脅かす要因

1つの小規模河川のみに生息しているため、この河川の環境悪化が絶滅に直結する。この河川には、潜在的な捕食者となる外来生物のオオクチバスの生息が確認されている。淡水魚飼育愛好者や観賞魚販売業者による捕獲行為も個体数の減少を引き起こす要因となりうる。

保護対策の現状

京都府改訂版レッドリスト2013で「絶滅寸前種」に選定された。また京都水族館が人工繁殖による保護に取り組んでいる。しかし、生息地保全に対する具体的な取り組みは行われていない。

特記事項

2010年に発見・発表された未記載新種である。標準和名は与えられているが、学名はまだついていない。基本的な情報が不足しているため、早急な生息環境・個体数調査が望まれる。当該河川での河川環境を大きく変えるような河川改修工事等は、慎重な検討が求められる。また、

個体群が小さいため、淡水魚飼育愛好者や観賞魚販売事業者に対する採取の規制が求められる。

参考文献

- 京都府, 2013. 京都府改訂レッドリスト2013. 京都府文化環境・エネルギー局自然環境保全課, 京都. 69pp.
- 中島淳・洲澤譲・清水孝昭・斉藤憲治, 2012. 日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 59: 86-95.
- 竹野誠人・柏木祥平・北川忠生, 2010. 京都府丹後地方から得られたシマドジョウ属の新たな4倍体性集団. 魚類学雑誌, 57: 105-112.

執筆者：北川忠生（近畿大学農学部）